



会 長 本多 勝也 副会長 渡辺 正弘 クラブ会報 穴戸 光英
 会長エレクト 齋藤 敏夫 幹 事 大坪 清悟

会長あいさつ

会長 本多 勝也



みなさん、こんにちは。
 本日のお客様をご紹介します。
 二本松青年海外協力隊訓練所所長の田中宏幸様です。田中様は、2021

年に二本松青年海外協力隊訓練所所長に赴任されました。本日のゲストスピーチで、青年海外協力隊の活動や国際協力の仕事の内容など、日頃なかなか聞くことができないことや私たちが経験したことのないことなど貴重なお話をさせていただけると思います。宜しくお願い致します。

先週の入会式は多数の参加ありがとうございました。新入会員も最後まで参加いただき楽しいひとときを過ごしました。新入会員からは、例会もできるだけ出席したいと話していました。

9月16日に、福島ロータリークラブ主催の「第3回スポGOMI大会 in ふくしま」に当クラブから2チームが参加しました。当日は天気もよく、300

名を超える人数で73チームの参加がありました。二本松あだたらRCのAチームが55位、Bチームが72位でした。集まったゴミの量は140kgで、マツコ・デラックスの体重と同じだということでした。ちなみに昨年は160kgだったそうです。様子は福島RCのホームページで閲覧できるとのことです。

9月22日に、クラブ管理運営委員会が郡山市の佐藤百合会員の店で開催され出席して参りました。後ほど委員長から報告をいただきたいと思ひます。

10月7日に会長幹事会が二本松で開催されます。終了後に「提灯祭り」見学が予定されています。そちらに私と幹事で出席して参ります。

このところ急に涼しくなり一気に秋になったような感じがしますが、日中はまだ暑い日もあり、寒暖の差が大きいので体調にはご注意くださいと思ひます。

本日のプログラム

JICA所長 田中宏幸様

9・10月のプログラム

第1366回例会：9月28日(木)／ゲストスピーチ JICA所長 田中宏幸様
 第1367回例会：10月5日(木)／ゲストスピーチ 福島RC 相良元章様
 第1368回例会：10月12日(木)／芋煮会：ウェルネス健康の森
 午後3時

10月19日(木)／休会
 第1369回例会：10月26日(木)／ガバナー訪問リハーサル

幹事報告

芋煮会のご案内

日時／令和5年10月12日(木)
 午後3時～

場所／ウェルネス健康の森

※多数の参加をお願いいたします。

●国際ロータリークラブ会長
 ゴードンR・マッキナリー(スコットランド)

●国際ロータリー第2530地区ガバナー
 右近 八郎 (福島ロータリークラブ)

●県北第一分区ガバナー補佐
 安部 敏弘 (二本松あだたらロータリークラブ)

四つのテスト

言行はこれに照らしてから
 一、真実かどうか
 二、みんなに公平か
 三、好意と友情を深めるか
 四、みんなの為になるかどうか

創 立 1993.6.30
 承 認 1993.9.10
 認証状伝達式 1993.11.8
 地 区 番 号 2530
 クラブ番号 29750
 例 会 日 毎週木曜日(12:30～13:30)

例 会 場 二本松商工会議所
 事 務 局 〒964-8577
 福島県二本松市本町 1-60-1
 二本松商工会議所
 Tel0243-23-3211
 Fax0243-23-6677

第3回スポGOMI大会 in ふくしま / 9月16日(土)開催



福島駅東口駅なかまち広場にて・ホストクラブ / 福島ロータリークラブ
参加者 / 坂路和美会員・阿部佳文会員・菅野秀夫会員・本多勝也会員・飯田美恵子会員・佐藤壮一郎会員

9月お誕生日おめでとうございます



秋山和久会員・齋藤敏夫会員・相川事務局・本田祐樹会員



会長から坂本会員に御祝贈呈

ニコニコ BOX

クラブ管理運営委員会 / 金田君子

本多勝也会員、出川正人会員、齋藤敏夫会員、安部敏弘会員、平塚与志一会員
宍戸光英会員、阿部佳文会員、飯田美恵子会員、佐藤壮一郎会員、菅野守芳会員渡
辺正弘会員、善方邦雄会員

*米山記念寄与者…本多勝也会員

*ロータリー財団…本多勝也会員、善方邦雄会員

◇皆様の善意に感謝致します。ありがとうございました。

クラブ管理運営委員会 (出席委員会) 金田君子

会員数	本日出席	出席率	メイクアップ	修正率
39名	21名	54%	15名	92%

ニコニコ BOX

目標額	550,000円
小計	24,000円
累計	174,000円

回、春と秋に募集しています。派遣期間が1年未満の短期派遣は現在、年に2回募集しています。「JICA 海外協力隊」サイトでは、現地で活躍する JICA 海外協力隊の活動の様子や募集の案内など、さまざまな情報を提供しています。

長期派遣の場合は、応募後、合格して訓練を経て実際に赴任するまで10カ月以上、短期派遣の場合は6カ月以上を要します。応募を考えている方、関心のある方、なんとなく気になっただけという方も、ぜひ詳細を以下よりご覧ください。

派遣前訓練・研修

JICA海外協力隊の選考の結果、合格された方はJICA海外協力隊候補者として60日から73日間程度の派遣前訓練を駒ヶ根訓練所(長野県)あるいは二本松訓練所(福島県)において合宿形式で行います。

任国から要請に対して技術力を補う必要のある方に対しては、課題別派遣前訓練を派遣前訓練の後に行います。

短期派遣の方には1週間以内の派遣前研修をオンラインで行います。

グローバルプログラム（派遣前型）について

合格者のうち希望者を対象に、合格決定から派遣前訓練開始までの期間中、日本国内の地方創生や多文化共生等の取り組み現場での実習機会（2か月半）を提供しています。

こうした課題解決に向けた日本の地方での実践経験は、隊員として途上国で活動する上で意義のある実習であると共に、帰国後のボランティア経験の社会還元にも役立つことが

期待されます。

現地での生活と活動

JICA海外協力隊は現地で提供される家屋に住居するなど、同様の生活を行います。活動は途上国からの要請に従い、現地の配属先の人々とともに現状の把握、課題を特定し、その課題解決に向けた対応案を検討し、その実施に向けた施行錯誤を繰り返します。

こうした現地の人々とともに生活し活動を行うことを通して日本（人）に対する親近感を醸成したり、結果として参加者自身の成長に繋がることを期待しています。

JICA 海外協力隊活動の社会還元

JICA海外協力隊経験者はその活動により得られた経験を糧に、日本国内外で活躍することが期待されます。実際に開発途上国で過ごすことで得られた行動力や失敗を恐れない心、日本の課題に対する“気づき”が日本を変える力になっています。



ゲストスピーチ

二本松青年海外協力隊訓練所所長 田中 宏幸 様



JICA 事業・訓練所の仕事について

JICA ボランティア派遣事業は、国際協力の志を持った方々を開発途上国にJICA海外協力隊として派遣し、現地の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベル途上国が抱える課題の解決に貢献する事業です。草の根レベルであっても、その活動は途上国の政府や政府機関、あるいは公益性を追求する非政府機関の活動となる点が特徴です。

開発途上国からの要請(ニーズ)に基づく、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。

派遣の主な目的は、(1) 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、(2) 異文化社会における相互理解の深化と共生、(3) ボランティア経験の社会還元です。途上国支援として(1)の開発に向けた貢献に加えて、(2)の途上国との草の根レベルの友好関係づくりや(3)の社会還元が加わっている点が「国

民参加型」事業と呼ばれる所以です。

JICA 海外協力隊の種類

2019年度よりボランティア事業を改編し、これまで20~39歳は青年、40~69歳はシニアと年齢によって分けていた派遣区分を抜本的に見直し、年齢にかかわらず案件の難易度に応じた区分としました。

うち、一般に広く職種で応募する一般案件を、「青年海外協力隊」「海外協力隊」とし、一定以上の経験・技術を持つ方がより高度な案件に対応するシニア案件を、「シニア海外協力隊」としています。

また、中南米の日系社会に派遣される「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」、同じく日系社会への派遣の中でも一定の経験・技術が必要な「日系社会シニア海外協力隊」があります。

JICA 海外協力隊の募集

派遣期間が1年以上の長期派遣は、毎年2